



令和 6 年度
港区平和青年団活動報告書
白い鳩のつなぐ平和の輪



活動報告書の発行に当たって

私たち、令和6年度港区平和青年団は、長崎派遣研修に向けて、6月から事前研修を行いました。事前研修では、「港区語り部の会」の皆様との交流のほか、都立第五福竜丸展示館と昭和館・しょうけい館の見学、ウクライナからの避難者との交流を行いました。また、例年の活動に加えて、今年度は東京大空襲・戦災資料センターから講師を招き、東京への空襲についても学び、平和に関する知識を深めました。

長崎派遣研修では、高校生平和大使との交流や青少年ピースフォーラムに参加し、「ケンカ・戦争」の原因はなんだろう？などについて、全国の同世代の学生たちと、たくさんの意見交換をしました。

また、8月9日の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列や被爆者の方々のお話を通して、改めて原爆の悲惨さや核兵器の脅威、平和の尊さを学びました。

そして、8月24日、これまでの研修で学んだ学習の成果を活かし、原爆の悲惨さや核兵器の脅威、平和の尊さを地域に伝える活動報告会を行いました。

この活動報告書を通じて、区民などの多くの方が平和について関心を持ち、考えていただくきっかけになれば幸いです。

最後に、事前研修、長崎派遣研修に際し、お世話になりました全ての皆様に心から御礼を申し上げます。

令和6年度港区平和青年団

目 次

| | |
|-------------------------|----|
| 団員紹介 | 1 |
| 令和6年度港区平和青年団活動のあゆみ | 9 |
| 活動報告 | 10 |
| 事前研修 | 10 |
| 長崎派遣研修結団式 | 25 |
| 長崎派遣研修3日間のスケジュール | 28 |
| 活動報告会 | 29 |
| 平和企画「未来へつなぐ私達の小さな一歩」 | 44 |
| 平和啓発活動～みなと区民まつりへの参加～ | 49 |
| 長崎の思い出 | 50 |
| 14名の団員が教えてくれたこと | 53 |
| 港区平和青年団派遣先及び派遣人数 | 54 |
| 被爆79周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典次第 | 55 |
| 長崎平和宣言 | 56 |

団員紹介

MEMBER
INTRODUCTIONS



港区平和青年団団長

安達 伸幸

ADACHI NOBUYUKI



【好きな言葉】

和して同ぜず

(仲がいい、でも必ずしも全員が同じ価値観というわけではなく、互いの違いを尊重する。そんな意味の孔子の言葉です。英語にすると Unity in Diversity でしょうか。)

【長崎派遣研修で団員に学んで欲しいこと】

憎しみ以外に人が戦争をする理由を考えてみましょう。アメリカには長崎に原爆を落としたかった人がいて、日本では多くの人が戦争を望まなかったのに戦争をしました。

それはなぜでしょう。また現代日本で、似た状況を経験したり、目撃したことはありますか。

【平和だと感じる時とその理由】

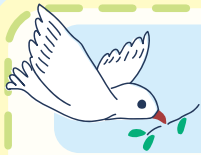
日本のパスポートでビザなしで入れる国と地域は 191 で、世界一の数です。

海外の空港で入国手続きをするとき、日本が戦後平和憲法のもとそれらの国や地域と友好関係を持ってきたことがわかり、平和のありがたさを実感します。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

平和は身近なところから。平和青年団のグループ内で、長崎派遣の行く先々で、帰ってきてから家庭内で、学校内で、フォーラムや区民まつりで、和して同ぜず、相手を尊重し自分を尊重することから平和をスタートさせましょう。





安達 功太郎 ADACHI KOTARO



【志望動機】

以前に沖縄でのイングリッシュキャンプというイベントで第二次大戦の戦地で平和について教えてもらいました。

それをきっかけに平和の形に興味を持ち、他の人は平和とはどのようなものだと考えているのかを知りたくなり参加しました。

【好きな言葉】

Genius is 1 percent inspiration and 99 percent perspiration

【長崎で学びたいこと】

長崎では、今まで戦争について平面上でしか学べなかったことをより具体的に理解することができると思います。

例えば、現地の人のお話、実際に見える現地の建造物、風景などから当時をリアルに感じ、学んでいきたいです。

【平和だと感じる時とその理由】

僕の生活では平和が当たり前となっていて、平和を感じることはめったにありません。

ですが、ニュースや授業などで、距離や時間が遠く離れた人々が戦争に巻き込まれているのを見る時、僕は平和に恵まれていて、安心できる一方、平和に限りがあると感じます。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

今回の長崎派遣研修は前回に比べ多くの応募があったと聞きました。

そこで選ばれ、港区を代表して派遣されるので、平和への理解を深められるように、また、平和にするために行動できるように、全力を尽くしていきます。



伊藤 優希 ITO YUKI



【志望動機】

戦争・気候変動と数々の諸課題が山積みの中、解決するにあたり担保されるべき平和について、自分が将来どのようにアクションを起こせるか考えたかったからです。

また、平和を希求する同世代の仲間たちと共に学べる場がとても貴重であるからです。

【好きな言葉】

感謝・努力・楽しむ！

【長崎で学びたいこと】

長崎でしか感じられない生の声、想いをたくさん感じたいです。

また、長崎に集まるたくさんの団体の方の意見を聞いて、自分の平和に対する考えを深めたいです。

そして、他の人達が平和に対し、どのようなアクションを取っているのか知りたいです。

【平和だと感じる時とその理由】

目標に向かって努力をしている今です。

努力するにも今の平和で恵まれた環境があってこそだからです。

また、未来に向かっていく時点で幸せだと感じます。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

まずは、平和祈念式典の趣旨である原爆犠牲者の霊を慰めるという責務を果たしたいです。

その上で、自分が平和に向けてどのようなアクションを取れるか考えていきたいです。





上野 稟仁 UENO RIHITO



【志望動機】

元々戦争に関心が特別あったり、知識をもっていたわけではありませんでしたが、逆にこの機会に平和や戦争について考えてみようと思い志望しました。

【好きな言葉】

人間関係は化学反応。一度作用しあったらもう元にはもどれない。

【長崎で学びたいこと】

長崎で目にする景色や、現地の方々がどのような思いで式典に参列しているのかを肌で感じ、終戦から79年でどのような思いが受け継がれているか知りたいと思います。

【平和だと感じる時とその理由】

友人と他愛ない話をして笑いあっているときに平和だと感じます。
なぜなら、その瞬間は何も気にすることなく楽しめるからです。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

現地の人々の思いなどを自分の肌で感じ、平和への理解を深められるように様々なものを吸収していきたいと思います。



亀田 知沙 KAMEDA CHISA



【志望動機】

昨年度この活動に参加されていた方に貴重な体験ができると聞き、ホームページで調べました。

実際に長崎に行き活動ができること、また貴重な戦争体験を直接聞き、同年代の方たちと交流ができると思い応募しました。

【好きな言葉】

一期一会

【長崎で学びたいこと】

長崎では、長崎でしかできない体験がたくさんできると思うので、メモや写真などを撮りながら記録し、同世代の方の考え方や思いを交流しながら学びたいです。

そして、学んだことを自分の言葉で伝えられるようになりたいです。

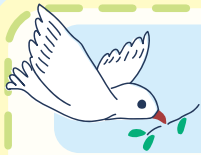
【平和だと感じる時とその理由】

私が平和だと感じるときは、花火を見て綺麗だと思うときです。
もし戦争中なら、花火に使う火薬を戦争のために使うことになると思います。
また、綺麗だと思うころの余裕を持てているからです。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

長崎派遣研修では、知らないことやわからないことが出てくると思います。
なにがとも諦めず、積極的に活動し、協力しながら頑張っていきたいです。
そして、このような活動ができることを感謝しながら研修に参加したいです。





亀山 紗来 KAMEYAMA SARA



【志望動機】

今回事前研修や長崎への派遣により、戦争、原子爆弾による被害を学び、将来の核戦争の可能性、人類のあるべき未来、そしてそこに辿り着くまでに自分が何をすべきか、したいのか、について考えるべく、応募させていただきました。

この機会を活かし、人類の核兵器の問題に将来どう自分が貢献できるかを考える機会にしたいと考えています。

【好きな言葉】

Peace is not achievement but responsibility

【長崎で学びたいこと】

私は、台湾や中国での海外経験やボランティア部での活動から、国際関係に興味を持っており、夏には日中青年会議のような国際関係を学ぶことができる活動に参加しようと思っています。

そこで行われる「核兵器は必要か」のような議論に参加する前に、日本の戦争の歴史やその背景、そしてなぜ日本は80年間、戦争に巻き込まれなかったのかを改めて考え直し、学びたいと考えています。

【平和だと感じる時とその理由】

毎日学校に行けば大好きな友達と談笑し、家に帰れば家族と食事をしたり変わらぬ毎日があることです。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

核を世界からなくすことが現実的に非常に難しい状況下、将来自分がどんな立場でどんな意思決定により、どんな貢献ができるか、一足飛びに核兵器がない時代を作るとは非常にハードルが高いが、政治的、経済的、技術的、社会的に少しでも有効な解決策について、色々考える機会にしたいと思います。

一つ私が考えているのは、唯一の戦争被爆国の国民である私たちが、もし核兵器と共存しなければならなくなるとしたら、核兵器が使われない未来を目指すことはできるだろうか。

そのためには、世界の90%以上の核を保有しているアメリカやロシア、その他の核保有国の若い世代が互いに交流し、核の必要性について何を考えているかを理解し、次世代に向けて、核が使用されない枠組みを作っていることを目指すことが重要だと考えています。



小林 洋太 KOBAYASHI YOTA



【志望動機】

親戚が広島に住んでいたため、小さい頃から広島の実爆被害に関心がありました。しかしながら、今まで同世代の人と原爆や平和について意見交換することや、長崎の実爆投下について学ぶ機会がありませんでした。

今回の活動を通して、より「原爆」について多角的な視点を得たいと思い志望しました。

【好きな言葉】

桜梅桃李

【長崎で学びたいこと】

フィールドワークを通じて、広島の実爆と比較しながら原爆とはどういうものなのか考えや知識を深めたいです。

また、青少年ピースフォーラムでは同世代の人と平和について意見交換をし、若者が未来の平和をどう構築していくか考え、実行していきたいです。

【平和だと感じる時とその理由】

毎年晩冬に家の近くにある河津桜が開花するときです。

80年前には戦争によって木が燃え、二度と花を咲かせることができなかった桜もあると思います。

毎年花が咲く喜びは自分にとって平和の原動力です。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

被爆地ナガサキで原爆について高校生という立場で学べるのがとても楽しみです。

未来の世界平和を築いていく被爆国の一高校生として、現地でたくさんのことを吸収し、最後の被爆地ナガサキを世界にどう発信していくかを考えながら学んでいきたいと思っています。





小林 莉奈 KOBAYASHI RINA



【志望動機】

自分が小さい頃住んでいたイギリスでは、戦争について学ぶ機会が多くありました。

戦死者追悼の日には、ポピーという赤い花のブローチを胸につけたりと、自分にとって身近なものでした。

しかし、私は日本人なので、日本から見た戦争も知りたいと思い応募しました。

【好きな言葉】

雨垂れ石を穿つ

【長崎で学びたいこと】

太平洋戦争の歴史と、その影響が現在にどのような影響があり、被爆地ではどのような平和への取組がされているのか知りたいです。

また、主に原爆の被害を受けた長崎の復興の過程や、当時の状況について学びたいです。

【平和だと感じる時とその理由】

犬が嬉しそうに夕日の中散歩をしている時や、犬がいびきをかきながら寝ている時です。

身近で最も幸せを感じる時であり、そんな時間を過ごせていること自体が平和だなと感じます。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

この貴重な経験を通じて、平和の尊さを学び、未来に向けてどのように平和を広めていくべきかを考える機会にしたいです。

現地での経験を大切に、学びを今後の活動に活かしていきたいと思っています。



古山 智 KOYAMA TOMO



【志望動機】

私は幼少期をアメリカで過ごし、多様な視点を得ましたが、日本人としての歴史に対する理解が不足していると感じました。

そこで平和青年団に参加し、原爆の歴史を学び、平和について深く理解したいと考えています。

そして、それを自分の言葉で伝えられるようになりたいと思っています。

【好きな言葉】

一歩ずつ

【長崎で学びたいこと】

私は長崎で実際に何が起きたのか、そして長崎の人々がどのような影響を受けたのかを学びたいです。

また、被爆者の方々から直接お話を伺い、その経験を通して、自分が今後平和の実現に向けて何ができるのかを見つけたいと思っています。

【平和だと感じる時とその理由】

私は家族や友人と安心して笑い合い、楽しい時間を過ごせる瞬間に平和を感じます。

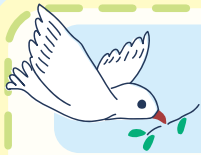
こうした何気ない時間こそが、実はとても貴重であり、その背景には私たちの生活が守られているからこそ成り立っているのだと実感します。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

長崎派遣研修を通じて多くのことを学び、自分自身も成長したいです。

この貴重な経験をもとに、今後さらに多くの人に平和の大切さを伝えられるようになりたいと考えています。





須藤 栞央 SUDO SHIO



【志望動機】

今まで、広島の実爆資料館や沖縄へ修学旅行に行った際、原爆被害や沖縄戦について学びました。

しかし、長崎には行ったことがなく、長崎で起きた原爆投下については深く理解できていなかったため、被爆者の方々が思っている願いや平和とは何か直接聞き、学びたいと思ったからです。

【好きな言葉】

一期一会

【長崎で学びたいこと】

戦時中の体験や行動を学びたいです。

私達が思っている平和の尊さと長崎の方々が感じている平和の尊さの違いを学びたいです。

そして、被爆者の願いとは何かを知りたいです。

【平和だと感じる時とその理由】

睡眠、食事をとれている時。

なぜなら、戦時中はそんな余裕がないからです。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

長崎で戦争や平和について学ぶことも大切ですが、青年団のみんなと楽しく話したり学んだりすることも大切にしたいです。



田中 陽暖 TANAKA HINATA



【志望動機】

私の夢は、海外協力隊の看護師になる事です。

海外では、戦争を体験した患者と出会うと思います。そこで少しでも患者の不安な気持ちを和らげ、寄り添うために、戦争を体験した人から話を聞きたいと思い志望しました。

【好きな言葉】

意志ある所に道は開ける

【長崎で学びたいこと】

私は、長崎では“平和の尊さ”について学びたいと思いました。

長崎では原子爆弾が投下され、一瞬で多くの尊い命が失われました。

原爆の被害がどのようなものだったのか、復興した姿に触れ、平和の尊さをしっかりと目に焼き付けたいと思います。

【平和だと感じる時とその理由】

家族と過ごす時間です。

戦争で家族を失った人が多くいる話を聞いて家族の大切さを学びました。

一人で悩んでいる時も困っている時も、いつも家族で過ごす時間が私にとっての平和です。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

平和青年団として責任をもち、長崎で平和について学び、後世代に語り継げるようにたくさんの事を知りたいです。

また、自分自身が成長できるようになりたいです。





辻 孝太郎 TSUJI KOTARO



【志望動機】

私は小中高の一貫校に通っていて、長崎の姉妹校との交流を通して、戦争と平和について学んできました。

同世代の人たちと戦争や平和について話し合い、知見をさらに広げ、事実を継承していく方法を考えたいと思い志望しました。

【好きな言葉】

夢は近づくと目標に変わる。

【長崎で学びたいこと】

原爆が投下された当時、長崎の町がどうなっているのかを知り、平和のために自分ができることを見つけ、実行できるようになりたいです。

【平和だと感じる時とその理由】

私が平和に感じるのはご飯を食べているときです。

こうして毎日三食食べられているのは、恵まれていると思います。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

実際に被爆地へ行き、現地の高校生の方々などと交流することで、新たな知見を広げられるような研修にしたいです。



早川 妃空 HAYAKAWA HIA



【志望動機】

私が平和青年団を志望した理由は、命の事を考えることが多くなったからです。

私の将来の夢は保育士であるため、小さい命をはじめ、色々な人の命のことをもっと考え、平和とは何かをみんなと考えていきたいと思ったからです。

【好きな言葉】

一期一会

【長崎で学びたいこと】

長崎で起こったことを映像や本で見た内容だけでなく、実際に現地で見聞きして知りたいです。そして、現実をしっかりと見たいと思います。

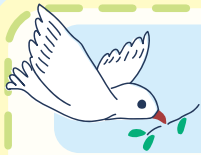
【平和だと感じる時とその理由】

家族やみんなと話が出来る時です。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

色々な人との交流を大切にしたいです。こうすれば、こうだったらなどの自分の意見を伝え、色々な人と意見交換できたらいいなと思います。





藤田 睦月

FUJITA MUTSUKI



【志望動機】

平和青年団の活動を通して、自分自身「平和とは何か」「戦争はなぜ起こるのか」ということを考え直したかったからです。

また、いつどこで戦争が起きてもおかしくない現代で、この二点は非常に重要だと思うからです。

【好きな言葉】

猪突猛進

【長崎で学びたいこと】

被害の大小ではなく、どんなことが起きたのか、そして終戦後もどのような影響が残ったのかなど、教科書にのっていない部分を学んでいきたいです。

【平和だと感じる時とその理由】

夜に布団に入り、今日一日の事や明日のことを考えながら眠りにつくときが平和だと感じます。

なぜなら、生命の危険や将来への不安があるとこのような時間は過ごせないと思うからです。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

今までの事前研修で学んだことを踏まえながら、自分ならではの思い・視点を大事にして、自分たちの持つ役割をしっかりと果たしたいと思います。

港区の代表として、自ら積極的に学んでいきたいです。



細田 早紀

HOSODA SAKI



【志望動機】

元々キリスト系の学校に通っていたこともあり、戦争や平和について学ぶ機会が多く、その影響で平和を創る活動に携わりたいと考えていました。

そんな時にこの青年団の存在を知り、「これだ!」と思い応募しました。

【好きな言葉】

今日という日は、残りの人生の最初の日 - チャールズ・ディードリッヒ -

【長崎で学びたいこと】

長崎の地域社会とその復興の取組について学び、平和の実現に向けて私たちができる具体的なアプローチとは何かを探りたいと思っています。

【平和だと感じる時とその理由】

スーパーやコンビニで当たり前のように自分のご飯を買うことができる時です。

私のような子どもでも自由に安価でおいしいご飯がおなかいっぱい食べられる環境があるということです。

【長崎派遣研修に向けての意気込み】

実際に長崎に行くことで、初めて知ることができるような事がたくさんあると思います。

そういった事実をより多くの人たちに知ってもらうために、一つひとつの活動に誠心誠意取り組み、広報活動に活かしていきたいです。



令和 6 年度港区平和青年団活動のあゆみ

| 月 日 | 内 容 |
|--------------------|--|
| 5月15日(水) 17日(金) | 団員選考 |
| 6月22日(土) | 【第1回事前研修】 令和5年度港区平和青年団修了生との交流会 「港区語り部の会」との交流会 |
| 7月6日(土) | 【第2回事前研修】 都立第五福竜丸展示館見学 |
| 7月20日(土) | 【第3回事前研修】 昭和館・しょうけい館見学 |
| 7月26日(金) | 【第4回事前研修】 東京への空襲についての勉強 ウクライナからの避難者との交流 |
| 8月1日(木) | 【結団式】 港区長から派遣決定書の交付 |
| | 【第5回事前研修】 長崎派遣研修の確認等 活動報告会の企画 活動報告書の企画 |
| 8月8日(木)～10日(土) | 【長崎派遣研修】 高校生平和大使との交流 青少年ピースフォーラムへの参加 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典参列 平和関連施設の見学 等 |
| 8月24日(土) | 【活動報告会】 平和のつどい |
| 10月13日(日) | 【事後活動】 みなと区民まつりにて平和啓発活動 【修了式】 修了書授与 |

第1回事前研修 研修レポート

「令和5年度港区平和青年団修了生」、「港区語り部の会」との交流会

日時 令和6年6月22日（土）

午後2時～5時

場所 生涯学習センター 101 会議室

（港区新橋3-16-3）

主な研修内容

- 1 オリエンテーション
- 2 「令和5年度港区平和青年団修了生」との交流会
- 3 「港区語り部の会」との交流会



安達 功太郎

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

今回初めて全員で顔を合わせました。

全員が違う平和、このイベントへの意思を持っていて、そのことも平和についても、どんどん知りたいと思いました。

なので、色々な平和について学んでいきたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

語り部の方々は「楽しみ」を交えて教えてくれました。

当たり前のように感じるかもしれませんが、今まで僕は授業やTV、講義などで戦争の話を聞くときは、いつもその空間は悲しいようなとても暗い雰囲気が僕たちの周りを囲っていました。

けれど、語り部の皆さんが楽しく、優しく、僕たちにあった接し方をしてくれたおかげでとても質問がしやすかったです。

伊藤 優希

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

歴代の戦争の経緯を丁寧に学び、今発生している紛争・戦争などの問題解決を武力に依存してしまう原因について学びたいと思いました。

将来、自分が戦争や関連する貧困・差別の問題に対してどのようなアクションが取れるのかについて学びたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

語り部の会の方々が当時子どものとき、戦争に対して疑問を持っていなかった点から、教育の力は非常に大きいものであると感じました。

また、米軍を見てカッコいいなと思った話から、本当にあの人たちが攻撃しているのかと疑問になっていた点がリアルで興味深かったです。

そして、戦争中・戦後の話から、今僕たちが享受できている環境は素晴らしいものであると改めて感じ、今の恵まれた環境に感謝して社会に貢献していきたいと思いました。



上野 稟仁

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

今回、港区語り部の会の方々にお話を聞いて、自分が想像していたレベルよりもひどい状態だと感じました。空襲だけでこの状況なのにも関わらず、広島・長崎は原爆を落とされていることを考えると、青年団として戦争がどのようなものだったか知り、平和がいかに大切か多くの人に知ってもらいたいと考えています。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

戦争について文字ではなく経験者の声で聞くことにより、改めて戦争の悲惨さを知り、考えさせられました。

自分の中で曖昧だった知識がお話を聞いたことにより整理され、より鮮明に戦争はやはりこれからやってはいけなくと再認識することができました。

更に語り部の会の方々の思いを聞き、自分たちは先人たちの思いによって、今平和に生きていると感じました。

亀田 知沙

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

この活動を通じて、知り合えた仲間たちと、自分からでは行こうと考えたことのないところに訪れることができます。

そこで、たくさん話し合いを行い、新しい考えを知り、学び、自分からも何か発信していきたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

最初、戦争を経験した方々はみな大変な思いをしていると考えていましたが、その「大変さ」の基準が人それぞれであることに驚きました。

語り部の会の方々との交流を通じて戦争体験についての話を聞くことができ、とても貴重な経験をしました。

語り部の会の方々が、私たちが事前に送った質問に対しての答えをまとめた資料も用意してくださったので、私の質問も含めてみんなの質問を知れて嬉しかったです。



亀山 紗来

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

私は平和青年団員として、紛争や戦争はなぜ起こるのか？平和とは何か？明確な答えがない問いだとは思いますが、自分なりの考えを導き出したいと思います。

また、自国の中だけで考えるのではなく、国を跨いでの議論も大事だと思います。

今後、海外の人にとっての平和とは何かなども学びたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

私は今回の研修を通して、自分たちが今戦争のない平和な国で生活しているのは当たり前ではないということを痛感しました。

ガザやウクライナのようにいつ突然戦争が始まってもおかしくないということを心の片隅に置きたいと思っています。地球上では今この瞬間も争いがたくさん起きています。争いがなくなる限り、平和は訪れないと私は思います。

しかし、平和の反対は紛争や戦争ではなく、平和ではない状態だと思います。

平和とは人々が持つべき最低限の人権と人間らしい生活があることだと思います。

小林 洋太

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

港区平和青年団では、普段あまり接することのできない平和に対しての志を持った人との交流や、長崎に行ったからこそできる経験があると思うので、たくさん色々な人の意見や知識を吸収して今度は自分がそれを発信する立場になりたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

戦後79年の今では考えられないようなことが起こって、それを体験した人と交流できることがとても貴重な体験だったと思いました。

体験した人から直接生の体験を聞く。これほど戦争というものを直接的に学ぶことができることはないと思います。

何不自由なく暮らせている今の社会を作ってきた前人に感謝するとともに、これからまた先の大戦のような苦しいことを起こさないためにも、今度は自分たちが何不自由ない社会の形成を担っていく番だと思いました。

これからも機会があったら、戦争体験者の方から積極的に意見を聞いていきたいと思います。



小林 莉奈

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

他の国と比べたらもちろん日本の治安は良いが、それで満足していいほど日本は平和なのか。戦争をしていないことが平和ということではないと思うので、周りがどう考えているのか知りたいと思います。

自分は、日本もそれほど平和ではないのでは、と考えているので、自分の意見が様々な見学や交流を経て変わるのかを知りたいです。

また、日本の治安がこれからどのように変わるかも気になっています。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

学校での教育は私たちの思想形成で重要な役割を果たしていて、子どもにとっては大人である先生や親に教えられることが全てであり、小さい頃、ましてや幼稚園の頃から第二次世界大戦において日本は勝つと教えられていれば、それを疑うことはないのは当たり前だと納得しました。

日本の領土拡大は本当に日本の国民を犠牲にしてまで行うべきだったのか、とても考えさせられました。

戦時よりは断然平和な今の日本でも、色々悩むことはあったけれど、貧困にも教育にも困ることなく生きてこられたのは、ここまで日本を築いてくださった方達と、親のおかげだと改めて身に染みて感じました。感謝を伝えたいです。

また、同じようなことを犯さないよう、広い視野、豊富な経験や偏りのない考え方ができるよう自分も頑張らなくてはと思いました。

古山 智

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

私はこれから平和青年団として、現代日本に大きな影響力のある戦争の歴史と教訓を学び、対話と協力を通じて平和な社会を築く方法を学びたいです。

また、歴史から現代の紛争問題についての理解を深め、平和構築のために、具体的に私が何をできるのかを考えていきたいです。



◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

「港区語り部の会」との交流会を通じて、戦争の悲惨さや平和の重要性を改めて実感しました。

語り部の方々の体験を伺い、話しがたい過去の出来事であっても、後世に伝えることのために努力している姿に感動しました。

こうした交流を通じて、私自身も今後の平和活動をもとに他の人にも平和の理解を広めるために積極的に関わりたいと考えるようになりました。

須藤 栄央

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

今回の語り部の会の方々に戦争体験の貴重なお話を聞いて、東京はほぼ焼け野原となり、青年は戦争へ行き、女性は働き、幼い子どもたちは手伝いをして、ご飯はおむすび1つしか食べられない程の過酷な状態だったことが分かりました。

戦争体験者の話から学んだこと、争いを二度と繰り返してはいけないということをたくさんの幅広い年齢の人達に伝えられるようにしたいと思います。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

どれだけ過酷な体験をし、辛い思いをしたのか深く感じとれました。

私が語り部の会の方々から聞く前は、平和を祈るだけでは現実は何も変わらないと思っていましたが、体験話を聞いたことで祈るだけではなく、より自分が平和について大勢の人達にそのまま体験話を伝え広めていくことが重要だと感じました。

田中 陽暖

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

私は、平和青年団として責任感を持って戦争を体験した人々と交流し、戦争と平和について理解を深めたいと思います。

また、これからの世の中が平和であるために青年団で学び自分自身ができることを探していきたいと思います。



◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

今回は、港区語り部の会のみなさんの戦争当時の話が聞ける貴重な交流でした。みなさんの話を聞いて戦争に対する意識が変わりました。

戦争中は食べ物もなく、いつ相手に殺されるか分からない中、必死に生きていかなければならないと聞いた事が一番の衝撃でした。今の私の当たり前は、戦争中では当たり前では無かったと学びました。

このような貴重な交流は、中々できないので、今回の交流で聞いた話をより多くの人に伝えていきたいと思いました。

辻 孝太郎

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

今回直接戦争体験者の方々のお話を聞いて、改めて「平和」とは何か考える機会になりました。

僕はこれから、平和青年団の活動を通して、様々な意見を知り、より深く平和について学んでいきたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

港区語り部の会の方々のお話を聞いて、一番印象に残ったのはみなさんが「戦中、戦後はとにかくお腹がすいていた」と口を揃えておっしゃっていたことです。

今では一日三食食べられることができて、戦後すぐは食料が不足していて盗んで食べている子どもも多かったそうです。

戦争は大人だけの問題ではなく、子どもにも大きな影響を及ぼしてしまうことを改めて感じました。

早川 妃空

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

私は平和青年団の団員になり、改めて学んでいきたい事を考えました。
私がここで学びたいのは命の大切さ、戦争の辛さ、平和とは何かです。
みんなと話し合い、色々な意見を聞き、絆や信頼関係を深めていきたいです。



◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

まずは私が思っていた事と、意見が違った事があり驚きました。

私がした質問は、「戦争中に感じた最も強い感情は何でしたか」です。私は、これに対して「怖い」という感情だと思っていましたが、いざ聞いてみると「相手がにくくなる」や「おなかいっぱい食べたい」という感情が最も強いとおっしゃっていました。

私たちは「おなかいっぱい食べたい」と思ったら食べられる今に生きています。でも、語り部の会のみなさんが小さかった頃は、おなかいっぱい食べられずにいたんだと、それが今も覚えている強い感情なのだと驚きました。

それと、同時に怖いとっていないのかなと考えたりもしましたが、怖いと感じる暇もなかったのかなと私は思いました。

藤田 睦月

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

日本に住んでいて、日常を過ごしていると、戦争の恐怖を感じる事は「今は」ない。

しかし、戦争の恐怖を感じる事は、「過去には」あった。

この戦争の恐怖を絶対に風化させてはいけないう、戦争の恐怖を感じるような世界にはさせたくありません。
この思いを共有しながら、日々、少しずつ「平和」について考えていきたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

「戦争の中で生きていた」と聞くと、どんな悲劇があったのか、どうやって生き延びることができたのか、という質問ばかりが浮かんでしまいました。

しかし実際には、「気づいたら」「いつのまにか」戦争が始まっていて、子どもだった自分に戦争は遠いものを感じていたという事を聞きました。

ウクライナやパレスチナでも、「気づいたら」「いつのまにか」戦争が始まっていました。遠い国で起きている事と考えず、戦争はいつどこで始まるのか分からないというのは、「平和の国」現代日本でも言えることだと感じました。

細田 早紀

◎平和青年団としてこれから学んでいきたいこと

私はこの活動を通して、戦争を経験した人々が徐々に減ってきている現代の日本で、私たち若者世代が二度と戦争を繰り返さないためには何ができるのか、何をすればいいのかについて考えていきたいです。

◎「港区語り部の会」との交流会を通じて、考えたこと・感じたこと

終戦から80年近く経っているのにも関わらず、当時の出来事をまるで昨日起きたことのようにすらすらと語るみなさんの姿を見て、それだけ戦争が記憶に残る凄惨な体験であったのだと実感しました。

また、語り部の会の方々にはご高齢者の方も多くいらっしゃるのに、昨今の世界情勢やSNSといった新しい文化にも深い関心を向けられているのを見て、私も将来このように世間に広く目を向けられる人間になりたいと思いました。



都立第五福竜丸展示館見学

日時 令和6年7月6日(土)
午後2時～5時

場所 都立第五福竜丸展示館
(江東区夢の島2-1-1
夢の島公園内)

主な研修内容

- 1 第五福竜丸の被害と水爆実験について(聴講)
- 2 館内の資料や展示物見学
- 3 ワークショップ



安達 功太郎

◎原水爆とは、原水爆実験について

問題は、アメリカはソ連に焦りを感じていたのか、この水爆実験が行われるにあたってその後のことを1つも想定せずに実施されたものだという事です。実際の被曝範囲と想定された被曝範囲との間に、3倍ものずれが生じていました。

その結果多くの方が犠牲になりました。このような悲劇を行わせないため、何事も想定し判断することが必要だと学びました。

伊藤 優希

◎館内見学(ワークショップ)をして、特に印象に残ったこと

船長の久保山さんのご家族に向け、全国から何千通もの手紙が届いたことが印象深いです。

小学生も自分の小遣いを寄付するなど、温かい言葉が送られてくるのを展示されていた手紙から感じることができました。

一方、ワークショップで第五福竜丸の人々が、たくさん補償されていたことに嫉妬して悪口を言うような人もいたことを知りました。もちろんアメリカ政府はしっかり補償をするべきですが、自分は不満のほこ先を福竜丸の方々に向けるのではなく、立ち上がって乗組員への補償を求める活動をしている方々のようになりたいと思いました。



上野 稟仁

◎第五福竜丸ビキニ被災事件について

第五福竜丸ビキニ事件とは、1954年3月1日にマーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験により被曝した静岡県焼津港所属の遠洋マグロ漁船の事件です。

爆心地より160kmも離れているところにも地鳴り音が聞こえたと言われています。この際、放たれた水爆は広島に落とされたものの1000倍の破壊力を持ち、「死の灰」と呼ばれる放射性降下物が降りそそぎ乗組員全員が被曝者となっていました。

さらに、乗組員のみならずマーシャル諸島の住人への健康被害が現れてしまいました。

今回の第五福竜丸に関して、アメリカの水爆実験により漁船に被害が出たとは知らなかったため、この水爆が広島に投下された原爆の1000倍の威力があったということに驚きました。

亀田 知沙

◎館内見学（ワークショップ）をして、特に印象に残ったこと。

ワークショップに参加して、かつては小学校低学年の子供たちは戦争に関する知識を持ち、手紙を書くなどの行動を取っていたことを知り、驚きました。

現代の子供たちは、過去の子供たちと比べ、戦争に関する知識が少ないと考えています。

なので、今後戦争についての知識を増やせる機会が増えていければ良いと思います。

亀山 紗来

◎第五福竜丸ビキニ被災事件について

1954年3月1日、マーシャル諸島のビキニ環礁で行われたアメリカの原水爆実験「キャッスル・ブラボー」。その影響を受けたのが、日本のマグロ漁船「第五福竜丸」でした。爆発後、巨大なキノコ雲が空に立ち昇り、船員たちは色と光の異変を目にしました。8分後には地鳴りが船に伝わり、その後、放射性の「死の灰」が降り注ぎました。この灰には珊瑚の欠片や放射性物質が含まれており、船員たちや船が直接被曝しました。

第五福竜丸の船員たちは命懸けで漁を続けましたが、その後、採れたマグロから放射性物質が検出され、最終的にそのマグロは穴を掘って捨てられることになりました。また、放射能は雨にも含まれており、食物や生活環境全てが汚染されました。この事態を受け、主婦たちが署名活動を行い、放射能の脅威を訴えました。船長の久保山さんは、同年9月に放射線病により家族を残して亡くなりました。彼は「原水爆の被害者は私を最後にして欲しい」との言葉を残しました。

広島に落とされた原子爆弾の7200発分に相当する核実験が世界中で行われました。これらの核実験は戦争で使用されていないに関わらず、多くの被曝者を生み出しました。第五福竜丸の残骸は、今もなお放射能の脅威を示す「生きた証人」として存在しています。第五福竜丸は今も核の無い未来に向けて航海中です。

私は今回の研修を通じて、この事件を忘れず、次世代に伝えていくことが、同じ過ちを繰り返さないためにも重要だと感じました。



小林 洋太

◎長崎に行くにあたって、今回学んだことをどのように活かしていきたいか。

世界で直接的な原爆の被害を受けたのは日本のヒロシマとナガサキだけであるが、間接的に被害を受けている地域や国は世界のほとんどだということに気づき、我々はもっと危機感を持ち、声を出していくべきだと思います。気づいていないだけで核実験は我々の生活のそばで行われていて、気づかないうちに我々の生活だけでなく、この地球全体がダメージを受けています。ビキニ環礁のように美しいサンゴ礁が人間の冒涇にすぎない核実験により破壊されてしまいます。

この世界は人間だけのものではありません。我々は他の生命体の中に溶け込んで生活しているのに過ぎないのです。平和問題というどうしても人間のことにだけ考えがちですが、ヒロシマの原爆では軍隊に使われていた馬なども多数被害を受けています。また、原爆が落ちたあと被爆地には75年は緑が戻ってこないとも言われていました。

これからナガサキに行くにあたって人間による社会情勢や歴史を学ぶことももちろんですが、自然のこと、放射線のことなど幅広い視点で「平和」という問題に対して接していきたいです。

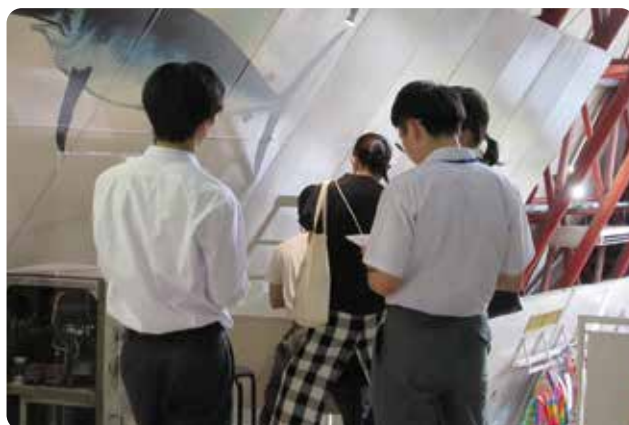
小林 莉奈

◎第五福竜丸ビキニ被災事件について

第五福竜丸ビキニ被災事件の資料を見て、無知は怖いと特に思いました。知識があるか否かが命を左右すると聞いて尚更怖いと感じました。

当時の人にあの白い粉が人の命を奪うものだとなる術はなかったですが、今、情報がすぐに出てくる世の中で、様々なことを学び、知っていれば容易に自分やその周りを救うことができます。

どんなことにおいても、被害を受ける人をゼロに近づけられるように、教育は全世界の人に行き届いてほしいと思います。また、自分の知っていること、学んだことを発信する大切さも身に染みました。



古山 智

◎第五福竜丸ビキニ被災事件について

今回の研修で第五福竜丸の歴史とその影響について学び、ビキニ環礁の核実験による被曝の被害の大きさと、国内外での反核運動の広がりを知りました。

特に、ビキニ環礁の被害についてアメリカ側が認めていないことに衝撃を受け、今でも原子爆弾の課題は解決から遠いと改めて感じました。

須藤 栄央

◎原水爆とは、原水爆実験について

原水爆とは原子爆弾と水素爆弾という意味です。

原水爆実験についてあまり知識はなかったのですが、実際見て説明を受けたことでこんなにも沢山の核実験が行われていることに驚きました。

昔の人たちの放射線に対しての思いと現在の核に関する状況を知れてよかったです。

写真や、実際の展示があったことで分かりやすく、知らなかったことも知ることが出来てよかったです。

田中 陽暖

◎館内見学（ワークショップ）をして、特に印象に残ったこと。

今回特に印象に残った事は、「原水爆の被害者はわたしを最後にして欲しい」という言葉です。

1954年3月1日未明、アメリカは太平洋ビキニ環礁において広島型原爆の約1000倍の威力をもつ水爆実験が行われて、核実験によってマーシャル諸島の人々や多くの日本漁船などが被災しました。また、多くの被害者がでました。

人々の間ではガンや甲状腺異常で、死産や先天的に障がいを持つ子どもが生まれるなどの被害がありました。

青年団として、悲惨な出来事や皆さんの思いを後の世代に伝えなければならないと思いました。

辻 孝太郎

◎第五福竜丸ビキニ被災事件について

今回の研修で一番記憶に残ったのは、被曝した後、国から補償金を貰えた第五福竜丸の人達が差別されていたということです。

不幸にも被曝してしまった上に、日本に帰ってからも差別されるのはとても辛いことだと思いました。

当時の様々な記憶からも、かなりの数の船が水爆実験の被害にあっている事が分かりました。もう二度とこのような事件は起きてはいけないと思いました。



早川 妃空

◎原水爆とは、原水爆実験について

原水爆とは、原子核の核分裂エネルギーを利用した原子爆弾と核融合エネルギーを利用する水素爆弾のことです。

原水爆実験は、核兵器の開発や性能評価のために行われます。これまで、米国、ロシア、フランスなどで2000回以上の核実験が行われています。

これらの実験は広範な環境への放射能の拡散を引き起こし、長期的な健康被害をもたらす可能性があります。

私は今回の研修を通じて、調べるだけではなく、実際に自分の目で見て学ぶことが大切である事が分かりました。

藤田 睦月

◎第五福竜丸ビキニ被災事件について

第五福竜丸ビキニ被災事件は現在でこそ、その被害の大きさが分かります。

放射能が身体に与える影響や漁業への風評被害など、決して「過去の記憶」では済まされないような被害を受け、その上、実際の被曝者の数など、いまだに分かっていないことも少なくありません。

戦争が終わった後にも戦争の被害者は存在するし、新たな被害者が出てしまうというのは本当に怖いと感じました。

細田 早紀

◎第五福竜丸ビキニ被災事件について

本研修を通して、私は自分の知識がとても浅かったことを思い知らされました。

第五福竜丸事件について、私は元々「水爆実験に日本人が巻き込まれた」程度の知識しかなかったのですが、まさか漁業などを通じて一般家庭や経済にも影響が出ているとは思いませんでした。

こういった、教科書を読むだけでは中々知ることがない当時のリアルな状況についても、より多くの人に関心を持ってほしいと感じました。



昭和館・しょうけい館見学

日時 令和6年7月20日（土）

午後2時～5時

場所 昭和館（千代田区九段南1-6-1）
しょうけい館（千代田区九段北1-11-5）
グリーンオーク九段2階

主な研修内容

- 1 学芸員の方からの説明
（昭和館・しょうけい館）
- 2 館内見学（昭和館・しょうけい館）



安達 功太郎

◎しょうけい館内展示を見学して、印象的だったこと。

話を聞き最も印象に残っているのは、戦時中の医療についての話です。その当時はとにかく兵士が必要だったので健康な人が第一なのです。

そのため、病人は放置されていたのです。細かな情報がリアルに展示されていて、その苦しさ強く感じられました。

それと同時に、もうこのようなことは繰り返してはいけなと感じました。

伊藤 優希

◎しょうけい館を見学して気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

しょうけい館内の体験記を読んでいたのですが、随所でナショナリズムと支配者（政府）の恐ろしさを感じました。

戦争中は政府が戦傷者・戦死者をたたえる風潮を作っていたが、終わってしまったとたんに見捨てられ、残された家族が大変な思いをしまい、国民が政府の戦争に勝利するためだけの駒として扱われていたことを受け、目先の熱狂や利益にとらわれず、長い目で見てどうなるかを自分自身で考えることが大切だと感じました。



上野 稟仁

◎しょうけい館内展示を見学して、印象的だったこと。

戦傷病者の体験記が一番印象的でした。

学校の授業等では被爆者が題材となっているものが多く、実際に戦地に赴き、終戦後どのようにして生活を送っていたのかを知る機会が少ないため、戦時中に負ったけがの後遺症などをかかえながら教職につく人が多かったということを初めて知りました。

また、義手・義足は3kgほどもあり、普段の生活は大変だったのではと思いました。

亀田 知沙

◎昭和館を見学して気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

見学、体験を通じて、この時代での生活は困難だと感じました。

防空壕体験は、想像以上に狭く暗く、揺れもあったためです。また、闇市でのシチューには食べ物以外のものも入っており、非常に厳しい環境だったと考えられます。

通常なら避けたい衛生状態の悪いシチューが販売されていたことを考えると、その時代の生活は想像以上に大変だったと思います。

亀山 紗来

◎昭和館内展示を見学して、印象的だったこと。

印象的だったのは、戦争中に「医務室」として使われていた洞窟が再現されたものです。

暗い洞窟の中で麻酔なしで行われた外科手術や、暑さや症状に苦しむ兵士が何もできずに横たわって弱っている姿が鮮明に再現されていました。

怪我をしたり、感染症に感染しても、衛生状態の悪い環境下で死を待つような姿は、まさに地獄のようでした。

小林 洋太

◎昭和館内展示を見学して、印象的だったこと。

この施設で戦時中や戦後の一般人の暮らしに関する展示を見て今の日本の有り難みを感じました。

戦時中や戦後間もない頃、日本人は生きるのに必死でした。今では考えられないようなものを食べたり、今では決して許されない行為で食べ物を得ていたりしていました。

たとえ戦争を乗り越えても苦しい生活が続く。言論の自由が保障されてない。自分たちが当たり前だと思っていることが当たり前ではありません。それが戦争でした。

そんな事を考えさせてくれる展示でした。今ある当たり前に感謝しつつ、二度とこのようなことを起こさないためにこの青年団の活動を通してこれからも考え続けていきたいです。



小林 莉奈

◎昭和館内展示を見学して、印象的だったこと

様々な体験談を読み、写真を見て、資料を読んだ後に聞いた玉音放送は思っていたよりあっさりしていて、無性に怒りを感じました。

また、アメリカが行った心理戦術としての伝単と呼ばれるビラを撒く行為は知らなかったので驚きました。ビラには様々な種類があり、連日のように紙吹雪が舞っていたというのを読んで、こんなことまでしていたのかと思いました。

アメリカが作ったはずなのにイラストまでもが日本人が描いたような絵柄でした。ビラを読んでいるだけで心が折れました。

古山 智

◎昭和館内展示を見学して、印象的だったこと。

昭和館内の展示を見学して、最も印象的だったのは、戦時中の一般庶民の生活の変化でした。

具体的には、配給制度による厳しい生活や、家族が戦争に巻き込まれるにつれて幸せな家庭が壊されていく様子が展示されており、戦争が人々の日常に及ぼす影響の大きさを改めて実感しました。

これらの展示を通じて、戦争の悲惨さと、私たちが日々送っている安全な生活がどれほど貴重なのかに気付きました。

須藤 栄央

◎しょうけい館を見学して気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

戦傷病者の証言や寄付してもらった数々の品々が見れて良かったのですが、本当に心苦しくなるほど辛い体験をしてきた人がいると知りました。

義足や義手や戦傷病者のリアルな模型から、自分自身も戦時中を体験しているかのような感覚になりました。

田中 陽暖

◎しょうけい館を見学して気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

生き残っても、地獄は続いていました。

負傷兵の中には、何度か手術を受けていた人やリハビリを繰り返していた人もいる事を知って、戦傷病者と家族の苦勞が感じ取れました。

また、戦傷病者だけでなく、生き残った人、そしてその家族までも苦しめる戦争は、やはり二度と繰り返してはいけないと心に刻んだ一日でした。



辻 孝太郎

◎昭和館を見学して気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

昭和館を見学して気づいたのは、戦前と戦後の暮らしは全然別物だということです。

戦前は一日三食しっかりと食べれていたのが、戦後すぐだと、さつまいも二本といったように、大きく変わってしまっていました。

また、日常の中で使っていた道具なども戦争によってなくなってしまい、不便な暮らしになっていたそうです。

改めて、戦争の恐ろしさを感じました。

早川 妃空

◎昭和館を見学して気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

私は防空壕の体験をしました。防空壕は思ったよりも小さく狭い事が分かりました。

そして、防空壕に入っている音などが聞こえて、当時の人たちはこんな感じだったのかと実感することが出来ました。

それ以外にも色々なポスターなどを見る事が出来て友達とこれは今でも使われてそう、などの意見交換が出来ました。

藤田 睦月

◎昭和館を見学して気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

昭和館では教科書で見たようなものから、存在すら初めて知るようなものなどがほぼすべて実物で並んでいました。

平和な時代に生まれ便利な社会で暮らしてきた僕は、戦争というものは本当に悲惨で、そして不自由にまみれた生活だったと思いました。

しかし、その時代を必死に生きて、その時代で亡くなられた方もたくさんいる以上、僕らは学び続け、伝え続けなければいけないと強く思いました。

細田 早紀

◎しょうけい館内展示を見学して、印象的だったこと。

しょうけい館は、ただ展示物を淡々と並べるだけではなく、それを所持していた人物の経歴や生い立ち、家族の状況までも事細かに掲載しているため、より鮮明に当時の状況が思い起こされて胸が痛くなりました。

また、展示の最後に掲示されていた、戦傷者たちの詠んだ短歌や詩を読んで、彼らが現代で平穏な日々を過ごせている喜びを感じるとともに、それを再び奪うようなことが今後あっては絶対にならないという強い覚悟も感じました。



第4回事前研修

東京への空襲についての学習・ウクライナからの避難者との交流

日時 令和6年7月26日(水) 午後2時～5時

場所 港区役所 9階 911会議室

東京への空襲についての学習



ウクライナからの避難者との交流



長崎派遣研修結団式

日時 令和6年8月1日（木） 午後2時～2時40分

場所 港区役所 4階 庁議室

- 1 長崎派遣決定書交付
- 2 区長挨拶
- 3 平和青年団団長、団員による抱負や決意表明



安達 功太郎

◎机上の空論から現実へ

今まで学校の授業の映像や画像でしかなかった戦争という風景が土地を通して立体的に、リアルに感じる事が出来るのは、とても貴重な経験です。

そのような機会を与えて貰った事に応えるためにも、プログラム全てに全力を尽くしていきます。

伊藤 優希

◎実のある長崎派遣に

結団式では、改めて長崎に港区の代表として行くのだなという実感が湧いてきました。

幅広い年代、国の方が平和祈念式典やピースフォーラムに集まってくると思うので、積極的に意見交換をして、平和に対する考えを深めていきたいです。

上野 稔仁

◎結団式を終えて

今回の結団式を終えて、改めて過去4回にわたる事前研修からは普段の生活から学ぶことが少ないものを多く学べたと思います。

特にしょうけい館の戦時中の戦傷病者の実情は印象的でした。

残すは長崎派遣となり、この長崎派遣では現地の人々がどのような思いで式典に参加し、何を未来へつないでいくのかを自分自身の目で見て、肌で感じたいと思います。



亀田 知沙

◎結団式を終えて

結団式で長崎派遣の決定書を受け取り、自己紹介と長崎研修に対する決意を述べました。
長崎研修に対する私の考えを清家区長や青年団の仲間たちと共有でき嬉しいです。
みんなの考えも協力して実現させていきたいと思います。

亀山 紗来

◎結団式を終えて

港区平和青年団員はきっかけは違っても、みんなが平和や戦争について学びたい意欲があり、それらについて意見交換や議論をすることによって、将来自分たちにできることを探索したいという思いが同じです。今回の結団式を終えて、私たちの長崎派遣に対する気持ちや意欲は益々高まったと思います。

今回の長崎派遣や事前研修から学んだことは、自身が部長を務めるボランティア部でアウトプットする機会を作ったり、それらを使用して長崎派遣後に参加する広島ジュニア国際フォーラムで海外の高校生と意見交換をすることによって、若い世代の私たちができることや、将来どんな貢献ができるのかを考えるためのヒントにしたいです。

小林 洋太

◎託されたバトン

結団式にて港区長から長崎派遣決定書をいただき、自分も平和構築の当事者になったことを深く感じました。

長崎派遣では私が青年団に入るきっかけでもあった同世代との対話をとても楽しみにしています。今まで事前研修を共にしてきた平和青年団の仲間だけでなく、全国からの同志との対話により“平和”というものについて考えを深めていきたいです。

未来を創っていく高校生と未来の平和に向けた一歩を踏みだせるよう、実り多い三日間にしたいです。

小林 莉奈

◎長崎派遣に向けて

長崎派遣では、平和祈念とともに当時の状況を自分の目と耳で知りたいです。

また、これまで平和についてじっくり話し合う機会がなかったため、初日や2日目のピースフォーラムでの意見交換に積極的に参加したいと思っています。

古山 智

◎長崎で学ぶ平和

長崎派遣研修を通じて、私は戦争の悲惨さと平和の大切さを自ら感じ、これからの世代を担う一員として、長崎で起きたことをより多くの人に伝え、平和の実現に貢献できる人材になりたいです。



須藤 栞央

◎平和について

結団式を終えて青年団の人達と親交が深まりました。
一緒に学んだ仲間と長崎に行って戦争がどれだけ悲惨なことだったのかを見聞きし、平和についてより深く学びたいです。

田中 陽暖

◎結団式

私は、港区代表として3日間長崎で平和の大切さと尊さについて学べることは貴重な時間だと実感しました。
平和青年団としての責任を持ち、次の世代に平和について学んでいく多くのことを伝えられるように頑張りたいと思いました。

辻 孝太郎

◎結団式を終えて

清家区長から派遣決定書を頂いた時に、平和青年団の一員として長崎へ行く事を改めて感じました。
長崎では様々な体験を通して、自分の成長に繋がれるよう精一杯頑張りたいと思います。

早川 妃空

◎結団式を終えて

結団式では改めて私は港区平和青年団の一員なんだと思いました。
そして互いの役割を理解し、信頼関係を築くことで、目標達成に向けた強力なチームを作ることができると感じました。

藤田 睦月

◎成長

僕は事前研修や結団式を終え、確実に成長したと感じています。
教科書で学習するのではなく、実物で、資料で、そして対面というふうに、平和青年団の活動を通して様々なことを学びました。
長崎派遣では更なる成長ができるよう、積極的に行動していきたいです。

細田 早紀

◎結団式を終えて

今回、区長から直々にコメントを頂いたことで、より活動に対する責任感が生まれました。
長崎派遣が近づくにつれて緊張を感じていた中、今回の結団式はわたしの自信にもつながるすごく良い機会となりました。



長 崎 派 遣 研 修

3 日間のスケジュール

| | 8月8日（木） | 8月9日（金） | 8月10日（土） |
|----|--|--------------------------------------|---|
| 6 | | 6：00 起床 | 6：00 起床 |
| 7 | 7：25 羽田空港集合 | 7：00 朝食 （ホテル内レストラン） | 7：00 朝食 （ホテル内レストラン） |
| 8 | 8：25 羽田空港出発 | 8：30 宿泊ホテル出発 8：40 平和公園到着 | 8：40 宿泊ホテル出発 8：45 爆心地公園到着 |
| 9 | | | 9：00 平和建造物等のフィールドワーク ・ 平和公園 ・ 原爆落下中心地 ・ 山王神社 |
| 10 | 10：15 長崎空港到着 | 10：45 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典参列及び中継視聴 | |
| 11 | 11：00 長崎空港出発 バスで移動 | 11：45 折り鶴奉納 | 11：30 昼食「長崎 I・K ホテル」 |
| 12 | 12：00 昼食「長崎アザレア」 高校生平和大使との交流会 | 12：00 昼食 「和泉屋平和公園前店」 | |
| 13 | | | 13：30 長崎空港着 |
| 14 | 14：00 青少年ピースフォーラム参加（平和会館ホール） ・ 被爆体験講話 ・ フィールドワーク | 14：00 青少年ピースフォーラム参加（出島メッセ） ・ 平和学習 | |
| 15 | | | 15：30 長崎空港発 |
| 16 | | | |
| 17 | | 17：00 原爆資料館見学 | 17：25 羽田空港着 |
| 18 | 18：00 青少年ピースフォーラム交流会（長崎新聞文化ホール） | 18：30 夕食 「ホテル内レストラン」 | 18：00 解散 |
| 19 | | | |
| 20 | 20：00 宿泊ホテル到着 ミーティング | 20：00 宿泊ホテル到着 ミーティング | |